

担当医/指導医	/	
目的	<input type="checkbox"/> 積極的治療	<input type="checkbox"/> 症状緩和
	<input type="checkbox"/> 術前補助	<input type="checkbox"/> 術後補助
告知程度	<input type="checkbox"/> 全告知 <input type="checkbox"/> 部分告知 <input type="checkbox"/> 未告知	
告知内容	<input type="checkbox"/> 癌( 原発・再発・進行 )	
	<input type="checkbox"/> 抗癌剤を使用する	
服薬指導	<input type="checkbox"/> 依頼する	
	看護師( ) 薬剤師( )	
HBV感染スクリーニング	<input type="checkbox"/> 確認済み	

身長:	cm	体重:	Kg
体表面積	m <sup>2</sup>		

### 非小細胞肺癌 ドセタキセル+アバスタチン併用療法

1コース:4週

投与開始日 年 月 日 クール予定

● DOC 60mg/m<sup>2</sup> Day 1 計算量: mg 投与量: mg  
 (DOC:一般名ドセタキセル、商品名ワンタキソテール)

● Bevacizumab 15 mg/kg 投与量: mg 抜き取り量: mL  
 (BV:一般名ベバズマブ、商品名アバスタチン)  
 《必要抜き取り量計算式》 15mg/kgの場合抜き取り量 (mL) = 体重(kg) × 0.6 (mL/kg)

#### 【投与スケジュール】

Day1	<main点滴>		
	1) EL-3号 500mL	1V	5時間
	<側管点滴>		
	1) 生食 100mL	1V	30分
	デキサート注射液1.65mg/0.5mL	12A	
	ファモチジン静注20mg	1A	
	ポラミン 5mg	1A	
	ドセタキセル投与開始1時間前		
2) 生食 100mL	1V	30分	
プリンパン	1A		
3) 5%Tz 250mL	1V	1時間	
ドセタキセル ( ) mg			
4) 生食 100mL	1V	投与時間は裏面参照	
アバスタチン ( ) mg			

- ◆原則として、添付の溶解液全量に溶解して10mg/mLの濃度とした後、必要量を注射筒で抜き取り、直ちに250または500mLの生食又は5%ブドウ糖に混和し、1時間以上かけて点滴静注する。
- ◆添付の溶解液にはエタノールが含有されているので、必ず問診によりアルコール過敏の有無を確認
- ◆ドセタキセルは最初10分間はゆっくりと点滴し、アナフィラキシーなどが無いことを確認して残りを点滴するように。(過敏症の発現に注意)
- ◆<禁忌>本剤又はポリソルベース80含有製剤に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者
- ◆<慎重投与>浮腫のある患者
- ◆(使用上の注意)投与当日に好中球2000/mm<sup>3</sup>未満の時  
→骨髄機能が回復する(好中球2000/mm<sup>3</sup>以上)までは投与延期
- ◆(使用上の注意)感染症又はその疑い:CRP異常(上昇)、発熱、WBC異常増多など  
→すべての異常が改善するまで投与延期

- ★ 投与時間:初回投与時は90分かけて点滴静注する。初回投与の忍容性が良好であれば、2回目の投与は60分間で行っても良い。  
2回目の投与においても忍容性が良好であれば、それ以降の投与は30分間投与とすることができる。
- ★ 溶解方法:必ず生理食塩液を使用する。本剤とブドウ糖溶液の混合は避ける。
- ★ アバスチンは併用化学療法終了後も増悪または忍容できない毒性の発現が認められるまで  
継続

特記事項